

けんせつぶんやとくていぎのう ごう ひょうかしけん けんせつきかいせこう
建設分野特定技能1号 評価試験（建設機械施工）
 じつぎしけん きかいうんてんようりょう
実技試験 機械運転要領



1. この運転要領は、実技試験の課題です。
2. 試験に使用する機種は、山積み0.3m³級程度のバックホウ（油圧ショベル）です。
3. 機械の運転時間（エンジン始動～降車迄）を計測します。
 基準とする運転時間及び制限時間は下表の通りです。この基準時間からの乖離量によって減点
 します。また、制限時間は運転時間を制限するもので、これを超過すると試験を中止します。

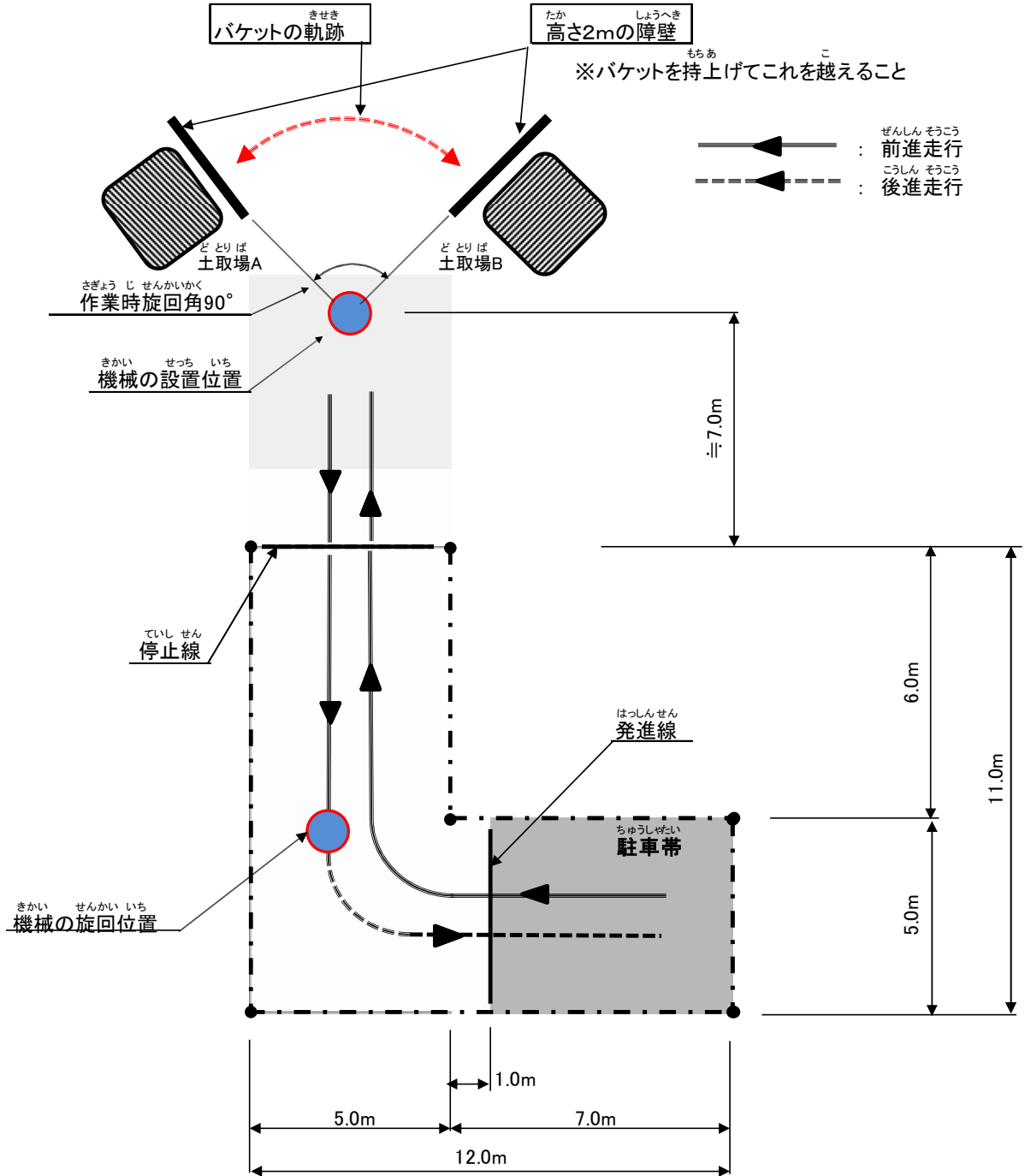
	運転時間	制限時間
時間	4.5分～6.5分	13.0分

I. 実技試験の機械運転要領

- (1) 駐機場にて
 駐機場において、機械の「始業時点検」を実施する。
 機械に搭乗後、エンジンを始動し、「作業装置の動作確認」を実施する。
- (2) 機械の走行移動
 駐機場を出て、作業場へ移動する。
- (3) 掘削、積み込み作業
 中央に障壁（高さH=2.0m）が設けられている。
 一方の側の地面の土砂をバケットに掬い込み、障壁を越えて、他方の側にこの土砂を放荷する作業を2回繰り返す。
- (4) 機械の走行移動
 作業終了後、機体を駐機場へ戻す。

けんせつ ぶんや とくてい ぎのう ごう ひょうか しけん けんせつ きがい せこう じつぎ しけん よう ず
建設分野特定技能1号評価試験(建設機械施工) 実技試験用コース図
 (対象機種 : 山積み0.30m3級程度のバックホウ)

- 
 きがい いどう はんい めじるしいど
 : 機械の移動範囲(コーナーの目印程度で)
- 
 きがい いったん ていし せん せんび ひつず
 : 機械の一旦停止線(線引き)(必須)



II. 実技試験受検上の留意事項

1. 試験開始時の機体の状態

- (1) 機体は、駐機スペースの中央に駐機。
- (2) バケット、ブレードは接地。
 - (1) 各部の状態は次の通り。
 - (a) エンジンは停止。
 - (b) ブレーキは効き。
 - (c) 操作レバーは中立（ニュートラル）の位置。

2. 試験の開始

エンジンキーを受け取り、試験官の指示により試験を開始。

3. 駐機場にて

(1) 始業時点検の実施

駐機場において実施する点検は「始業時点検」であり、機体の外観の点検、冷却水、エンジンオイルの漏れ、等とする。

(2) 機体に搭乗

搭乗直前に、機体周辺の安全確認を実施し、3点支持で搭乗する。

※ 安全確認は、4方向（右・左・後・前）を指差呼称で行うことを基本とする。

※ 安全確認すべき場所の指差し方向についても厳格に評価する。

搭乗後、シートの位置調整をし、シートベルトを装着する。

(3) エンジンを始動

操作レバーは中立（ニュートラル）を確認し、エンジンキーを差し込んでモニターで計器類を確認した後、エンジンを始動させる。（この時から運転時間の計測を開始する。）

(4) エンジンの調整

エンジン始動後、アクセルレバーまたはダイヤルによりエンジン回転数の調整を行う。

(5) 作業装置の動作確認

セーフティレバーを解除後、安全確認を実施し、作業装置の動きを確認する。

ブーム、アーム、バケット及び機体上部の旋回が確認の対象である。部位毎に確認を実施すること。

(6) 発進

機体を走行姿勢にする。

走行姿勢とは、ブーム・アーム・バケットを折りたたみ、ブームが運転席キャビンの高さより上に出ない状態のこと。

発進線まで機体を進めて停止し、安全確認後に駐機場を出る。

4. 作業場所への走行

駐機場を出た機体は、走行姿勢を保ちつつ停止線まで進んで停止し、安全確認後作業場内に入る。

5. 掘削作業

土取場Aもしくは土取場Bの何れかで掘削し、他方で荷空けする作業をする。
(以下、土取場Aで掘削し、土取場Bに荷空けするケースで記述する。)

- (1) 作業位置まで機体を進めて、ブレードを接地させ、機体を安定させる。(作業位置とは、障壁を越える際にバケットが必ず障壁の上を通過する位置である。)
- (2) ブームを起し、バケットが障壁を越える高さまで上げ、掘削する土取場Aの方向のみを安全確認し、旋回する。
- (3) 土取場Aで、満杯になるようにバケット及びアームを操作して土砂を掬い込み、バケットの口を水平にして、高さ2mの障壁を越える高さまでバケットを持上げる。
- (4) 持ち上げる際に土砂の荷零れを起こさないように、バケットを水平に保つ操作が必要です。
- (5) 旋回方向のみの安全確認を実施し、バケットを土取場Bへ旋回させる。
- (6) バケットが土取場Bまで旋回したら、バケットを下げて、土砂を空ける。
- (7) 荷空け後、バケットを高さ2m以上となるように持上げる。
- (8) 土取場Aの方向(旋回方向)を安全確認し、旋回する。
- (9) (3)～(7)をもう一度繰り返す。
- (10) 2回の掘削で作業を終了する。

6. 駐機場への走行

- (1) 2回目に荷空けした位置で、機体を旋回姿勢にする。(旋回姿勢とは、アームを折りたたみ、ブームを持ち上げて、旋回半径を小さくした姿勢である。)
- (2) 旋回姿勢となった後、安全確認を実施後、帰路方向に向くように機体上部を旋回する。
- (3) 旋回後、ブームを下げて走行姿勢を取り、安全確認を実施後、停止線まで機体を進める。
- (4) 停止線で一旦停止し、安全確認を実施する。
- (5) 確認後、機体の走行姿勢を保ち、駐機場方向へ移動する。

7. 駐機場入れ

- (1) 駐機場直前の赤丸地点(試験コース図に明示)で停止し、旋回姿勢を取る。
- (2) 安全確認実施後、機体上部を180度旋回させる。
- (3) 旋回終了後、走行姿勢を取り、安全確認実施後、後進で発進線まで進める。
- (4) 発進線で停止し、安全確認後、駐機場に入れる。
- (5) 所定の位置(駐機場の中央部分)で停車し、バケット・ブレードを接地させ、操作レバーは中立(ニュートラル)にし、セーフティレバーを起す。
- (6) 計器類(油量計、回転計等)を確認し、10秒間のアイドルング後、エンジンを停止させ、エンジンキーを抜き取る。
- (7) 運転席を立って、安全確認後、3点支持で機体から降りる。
(受検者の両足が地面に着地した時点で運転時間の計測を終了する。)

8. 試験終了の合図

エンジンキーを試験監督員に渡し、運転終了を告げる。